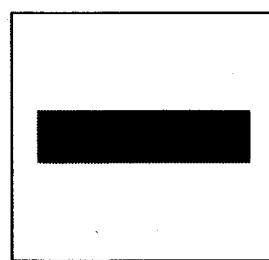
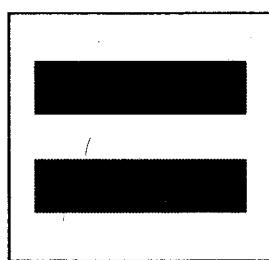
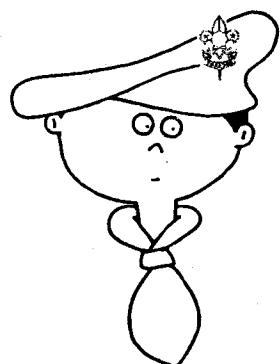


# 班長訓練



日本ボーイスカウト船橋第20団

鈴木 誠

## 目次

はじめに .....	1
I. 上級班長トレーニング .....	4
II. グリーンパートトレーニング .....	8
1. 新任グリーンパートトレーニング I (1982年度版) .....	8
2. 新任グリーンパートトレーニング II (2007年度版) .....	13
3. 常時行うグリーンパートトレーニング .....	24
III. 班制教育のツール .....	31
1. 班別章と班旗 .....	31
2. 班ノート .....	33
3. 班費 .....	36
4. 班の色 .....	37
5. 班競点 .....	37
IV. 隊長の心構え .....	38
おわりに .....	40

## はじめに

この資料を書き始めたときに、「他は己でなし」という言葉に出会いました。まさに自分が体験したことを他人に理解してもらうことの難しさ、また考え方の異なる人に自分の考えを押し付けてはならないという教えを表した言葉だと思います。

その意味でこの資料は「自分の記録として」を第一とし、読んでくださる方に対してもあくまでも「参考」にしていただきたための資料として書いていこうと思います。

2007年は、ボーイスカウト運動が始まってちょうど100周年になります。

私がスカウティングを始めたのが1950年ですから、はやくも半世紀を越えました。スカウトとして約10年間、指導者として50年、特に隊指導者としては長くボーイ隊、シニア隊（現ベンチャー隊）、ローバー隊の指導者を体験させていただきました。

スカウト活動の3本の柱となっている「班制教育」、「進歩制度」、「野外活動」について考えてみると、「進歩制度」は、目標となる進級課目や修得バッジで目に見えるものがあり、「野外活動」はプログラムに関するいろいろな書物がたくさん出ていますし、ハイキング、キャンピングの実施で展開できます。しかし、私が一番大切な制度であると思っている「班制教育」の実践については、なかなか目に見える形の書物は少ないように思います。

「班制教育」の基本は、先輩である鈴木國夫さん（現千葉県連盟理事長）が、1959年にギルウェル実修所を終了してボーイスカウト市原第1隊の隊長になり、隊運営を始めたときに指導を受けました。

上級班長を中心としたグリーンバー会議で、年間プログラム、月間プログラム、進級の承認など隊運営の中心は、このグリーンバー会議にありました。また、グリーンバー中心のトレーニングもよく行いました。

前の『隊長ハンドブック』も、今の『リーダーハンドブック』を見ても、班長訓練の必要性は書いてありますが、基本となる「班長訓練（グリーンバートレーニング）」については、具体的に書かれていらないように思います。

### 【『ボーイスカウト隊リーダーハンドブック』 2-5 班長のリーダーシップトレーニング 2-5-1 班長会議と班長訓練 (p.33)】

班長訓練（グリーンバー訓練）は、隊指導者にとってとても大切な仕事です。「ボーイスカウト隊の活動がすべて、うまく展開できるかどうかは、この班長訓練にかかっている。」といつても過言ではありません。班長訓練では、特に班長が率先して班員を指導できるようにすることが主なねらいであり、そのために必要な知識や技能、そして心構えというものを学びます。

そうして積み重ねてきた成果が班活動となり、隊集会の場において各班が競い合い、また協力しながら隊の活動を組みたてていくことが、隊のプログラムの流れです。

班長訓練は、単に技能指導だけでなく、隊指導者との相互理解とふれあいの場ともなります。

と記載されています。ほかには具体的な訓練の実際を記述したものは見当たりません。

昔は班制度と呼ばれていたのがいつの間にか、班制教育と改められました。たしかに実際に使う事は班制教育ですが、どのように使うのかとなるとどの本にも明確に書かれていませんように思います。

現在のウッドバッジ研修所でも班制教育の重要性や班長訓練の重要性は話されますが、時間がないので実際のノウハウはほとんど勉強できないのが残念です。

そこで、私なりに実践してきた「グリーンバートレーニング」を中心に、参考になればと思い書いてみます。

私が班制度を意識的に実践し始めたのは、1969年4月に船橋第6団のボーイ隊長を引き受けてからです。

市原第1隊の副長のとき、鈴木國夫隊長が毎週のように行っていたグリーンバー会議（班長・次長会議）を経験していましたので、それをモデルにして隊長として実施するようになったわけです。当時、年齢は30歳、長男生後4ヶ月、新築したばかりの狭い私の家の応接間は、中学生8名、高校生1名に私で、身動きのできない状況でのグリーンバー会議をよくしました。

1年目の8月までは、前隊長が作成したプログラムを引き継いで実施しましたが、翌年9月以降は新グリーンバーで話し合って作成した年間プログラムを展開しました。

次の年ウッドバッジ研修所ボイスカウト課程関東3期（那須野営場）に入りましたが、班制度について目新しいことは研修できませんでした。

どちらかというとトレーニングの重要性は会社で学びました。高等学校を卒業して会社に入り、いろいろ勉強しましたが、入社して3年目に労働組合の結成に参画しました。それから約10年間執行委員として活動したことがよい経験になりました。特に、青年婦人対策部を担当し、新組合員の教育やレクレーションリーダーの教育に携わり、教育（トレーニング）の必要性と効果を学びました。

班制度を生かした教育を実施するには、バトロールリーダーであるグリーンバーのトレーニングが一番の課題です。

しかも、ボイスカウトの班長・次長はかわいそうなことに任期1年と非常に短期です。それだけに効果的なトレーニングが必要なのだと思います。

1979年にウッドバッジ実修所ボイスカウト課程50期を修了して、本格的にグ

グリーンバートトレーニングについて自分なりに考えるようになりました。その結果、会社での体験を活かして、新任グリーンバートトレーニングを始めることにしました。

このような経緯で実施した新任グリーンバートトレーニングと上級班長トレーニングが、本資料に書いた内容です。

残念ながら現在の新しい進歩課目での隊長経験がありませんので、最初に 1982 年度の進歩課目で実施した内容を項目のみ記述し、現在の進歩課目で私が実施するところになるであろうという想定で、2007 年度版としての記述をしてみました。

また、今回京都連盟から『パトロールリーダー・ハンドブック』が発行されましたので、大いにトレーニングに活用するとよりよい成果が生まれるでしょう。

皆様方もそれぞれにお考えがありますので、私の方式に対するご意見も多くあるものと思いますが、いずれにしてもスカウトを育てるために「実践躬行」Activity first が大事だと考えます。

## For You

# I. 上級班長トレーニング

ボーイスカウト隊には、上級班長という班長がいます。この任務については教育規定（平成18年度版）6-84に、「上級班長は、隊長の指導の下に、隊活動の中心となり、また班長会議の座長となる。」とあります。具体的な仕事は、①班長会議の座長をする、②隊集会の集散をする、③班長の相談役になる、④隊長からの指示を班長に伝える、⑤必要により班長へ技能指導をする、ことではないでしょうか。

これらの任務を正しく遂行させるには、それなりのトレーニングをする必要があると私は思って新任時の上級班長トレーニングを考えました。

トレーニングの話に入るまえに、上級班長について私の考えを述べたいと思います。

教育規定では、「18歳以下で指導力を有する1級以上のスカウトであることが必要であり」と書かれています。私の考えは、上級班長はベンチャースカウトでないとできないと思い、ベンチャースカウトを任命してきました。

ひとつは、やはり1学年上のスカウトの方が班長に対する指示、伝達がうまくゆきます。もう一つは、ボーイ隊からベンチャ一隊への上進率を上げるには、上級班長がその繋ぎ役をするのです。

ベンチャ一隊の楽しい活動状況を班長達に伝える役目をするのです。各団がベンチャースカウトを上級班長として活用するならば、必ず組織面と教育面でよい結果が得られると思います。

では、上級班長教育について記述してみたいと思います。

トレーニングは、目的、目標を明確にしてはじめて効果を上げることができます。目的は班制教育の推進で、目標は「上級班長の任務（仕事）が正しく遂行できる」ことです。以下、その任務ごとにトレーニングの内容と留意点を示します。

## 任務1：グリーンバー会議の座長が正しくできる

### (1) ボーイスカウト活動の班制教育のねらい

- ① パトロールリーダー（班長・次長）の任務について教える。
- ② 班会議・班集会の必要性について教える。

### (2) グリーンバー会議の目的

- ① ボーイスカウト隊の運営はパトロールリーダーを中心に行うことを教える。
- ② そのために、年プロをはじめプログラムの決定権はグリーンバー会議にあることを教える。

③ グリーンバーがパトロールリーダーとしての活躍ができるようにトレーニングする場であることを教える。

④ 進級の承認（名誉会議）

各班長から申請のあった進級者に対して名誉会議を開催して各班長の意見を求めて進級承認をする。

(3) 座長としてのリーダーシップ

① 座長の公平性（全員の意見を聞く）

班長会議の座長として、参加する班長に対して公平に対応する、すなわち、発言の機会、意見の取上げ、指導・指示の仕方などを偏らないようにすべて公平にすることを教える。

② 会議の目的を理解する

班長会議の議題を把握して、決めるべき事柄を事前に理解しておくこと、上級班長は隊長と事前調整をしておくことの必要性を教える。

③ 決定項目の把握と確認

決定事項については、記録の確認および復唱をするとよいことを教える。

④ 開閉会のけじめ（セレモニー）

会議の閉会についてけじめをつけること

上級班長マーク

の重要性を教える。

ソング、おきての唱和等を行う。



⑤ 必要によりグリーンバーへの助言

先輩として、上級班長の役務としてメンバーに助言をして、進行を早める必要性を教える。

## 任務 2：隊集会の集散を行う（団行事等の集会も行わせるとよい）

(1) 規律について

① 隊集会での規律の必要性と効果について教える。

規律がよくなると、すべての行動がよくなり「ちかい」と「おきて」の基本につながる。

② 上級班長が模範となることを教える。

先輩スカウトとして模範を示すことが自分のスカウティングの向上につながる。

(2) 集散方法

① 集合隊形と合図（現在の『ボーイスカウトハンドブック』p.30）

② 集散のルール（船橋 20 団としてのルール、集合・解散・報告者等）

特にスマートに集めるために、自分自身の立つ位置、隊形との距離をよく理

### 解してもらう

笛の使用の徹底（声よりもスマートでよく伝わる）

- ③ 敬礼、気を付け、休め、の合図と位置取り

- ④ スカウトへの注意の仕方

スカウトへの注意の仕方として、上級班長から班長へ、班長から班員へのルールを理解し徹底するように教える。

- ⑤ 整列終了後班長から報告を受ける。全員終了後指示者に整列終了の報告を行う。

### (3) 国旗、隊旗の取り扱い

- ① 国旗儀礼

事前に国旗がセットされている場合の号令のかけ方を教える。

- ② 国旗掲揚

『スカウトハンドブック』(p.34) を活用し指導する。

- ③ 隊旗の取り扱い

隊旗の取り扱い方について、正しく指導する。

## 任務 3：班長の相談相手になる

- ① グリーンバー会議等で普段から相談できる雰囲気をつくることの大切さを教える。
- ② 相談された時は、相手の身になって話し相手になることの大切さを教える。
- ③ 先輩として、スカウト技能を身に付けて指導できるようになると尊敬されることを教える。

## 任務 4：隊長からの指示を班長に伝える

- ① 隊長から上級班長の指示伝達のルール確認と目的の説明

副長を交えて、隊内のルールを明確にしておく、スカウトへの指示は、できるだけ 上級班長 ⇒ 班長 ⇒ 班員 とする。

特別な場合として、安全確認、ゲームのルール等は正しく伝える必要があるので、担当者が直接行うことを確認する。

- ② 副長からの指示について

副長からの指示も上級班長から行う。 上級班長 ⇒ 班長 ⇒ 班員

- ③ 集会中の役割

集会中は、隊長の傍にいて隊長から出る指示、伝達を班長に伝える。

- ④ キャンプ中の役割

できるだけサイトを巡回して、班長の相談相手となりアドバイスをする。

また、隊長からの指示、伝達を班長に伝える。

### 5 報告のルール

指示項目については、指示伝達後は指示者（隊長等）に終了報告をする。

### 任務 5：班長への技能指導をする

- ① 隊長は、隊内の技能レベルの統一を図り上級班長の指導範囲を決める。  
隊内の技能レベルの統一はその時々人によって指導内容が変化しないようにするためで、できるだけ同じように指示できるようにするために、上級班長を指導する。
- ② 指導方法を教える。  
隊指導者の持っている技能指導のノウハウを上級班長にも教えることにより、ベンチャースカウトとしてのレベルアップをさせてあげる。

以上の内容を、上級班長に就任した時にトレーニングします。できれば文書化しておき、歴代隊指導者に引継ぎをすると、団の伝統になります。

このトレーニングのねらいは、上級班長に自信を付けさせ、班長との信頼度を向上させるためと、隊長と上級班長のコミュニケーションを図り、信頼関係を作りあげる場とすることです。

この事により上級班長の自覚ができる、集会への出席率も向上し、上級班長としての役務の遂行ができ、ベンチャースカウトとして本人の向上にもつながります。

隊の伝統は、現在運営している人が作るものでよい伝統を早く確立して継続していく義務があると思います。

隊長は、孤独ではない！

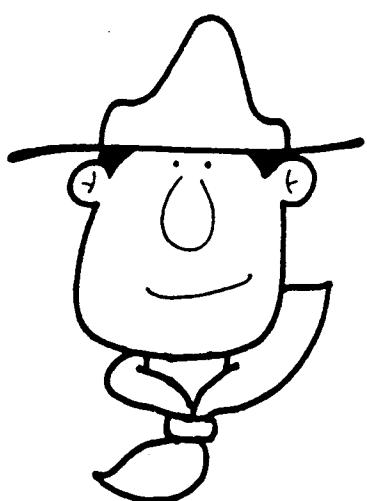
副長もいる

上級班長もいる

可愛い班長がいる

多くのスカウトがいる

みんな仲間だ、道の友



## Ⅱ. グリーンバートレーニング

### 1. 新任グリーンバートレーニング I (1982 年版実施した項目のみ)

グリーンバートレーニングについては、①一般的トレーニング（常時行うもの）と、②新任時のグリーンバートレーニングに分けたいと思います。ここでは、後者の新任グリーンバートレーニングについて私の行ったことを書いてみたいと思います。

前にも述べましたように、1979年にウッドバッジ実修所を出て、班制教育の成果を上げるために新任グリーンバートレーニングが必要であると考えて2, 3年研究して実施したものですから、内容は古い進歩課目になっています。現在の進歩課目に置き換えたものは、後で述べることにします。

実施した時期は、8月の下旬から9月、10月の約2か月間です。このため隊の年間プログラムは、10月から9月までを1カ年として考えて組みました。

実施日は、当時のグリーンバーとの調整で、部活と塾に左右されない日曜日の午後6時から9時に船橋市高根公団の東集会所で行いました。

隊長である私が県連盟の副コミッショナーをしながら日曜日のこの時間を確保するのが一番辛かったです。講師は、副長、ローバースカウトとシニアスカウトの応援を得て行いましたので楽しくできました。

このトレーニングの目的は「班制教育の成果を上げること」で、目標は次の3点です。

- ① 短期間にパトロールリーダーとしての能力と自覚を身につけさせる。
- ② グリーンバー（当時は全員中学2年生）で1級スカウトになっていないスカウトを1級スカウトにする。（このことは、スカウトに内緒です。）
- ③ 隊長がグリーンバーとのコミュニケーションの場としてグリーンバー一人ひとりを観察し、一人ひとり性格を把握して、指導方法など今後の活動に生かす。（これは、大きな目標です。）

トレーニング課目は次のようなものです。（細目については、2007年度版で述べます。）

#### (1) 隊長・次長の任務（『隊長ハンドブック』より） 4時間（2日間）

- ① パトロールリーダーとして隊のプログラムを決める。

班会議⇒グリーンバー会議⇒班集会（開催と参加について）

- ② 班会議・班集会（班キャンプも含む）の目的と目標  
計画書・報告書の作成
- ③ 班員の役務分担  
通常時の役務、キャンプ中の役務
- ④ 班費の使い方（班費は、次長が管理し班長と相談して班のために使用する。  
班集会のお菓子代に使用してもよい）
- ⑤ 進級課目の指導と考査について（班集会は進級課目を班長が指導する場であ  
り、また考査する場である）
- ⑥ 班備品の管理（担当者を決めて行う）  
班旗、班ノート、書籍、地図、炊具、工具、班の色
- ⑦ 連絡網の確立と活用ルール  
新入班員の指導と途中チェック体制の確立、最終確認  
集会への班員出欠の把握
- ⑧ 班ノートの使い方  
班の伝統と名誉について  
記入は自由であり班の記録帳として活用する。
- ⑨ 班員の進級について（名誉会議）  
グリーンバー会議への報告と承認
- ⑩ 班競点  
ルールを決める。（年度ごとにスカウトがルールを決める）

**(2) 技能（進級課目）1項目1時間から2時間室内で実施した。**

- ① 基本
  - ア. ベーデン・パウエル（B-P）について
  - イ. 「ちかい」と「おきて」
  - ウ. 国旗の取り扱い

- ② 結索（ロープ）
  - ア. 結索章（特修章）の項目をマスターする。
  - イ. 隊集会で行う結索ゲームへの対応（班員の  
指導の仕方）

- ③ 通信
  - ア. 手・笛の合図
  - イ. 手旗信号（おぼえ方、指導の仕方）
  - ウ. モールス記号によるゲーム

- ④ 救急
  - ア. 救急章（特修章）の項目を  
マスターする。



## イ. 救急に対する考え方

### ⑤ 安全

#### ア. 安全とは

イ. 正しい技能が身を守る基本

### ⑥ 計測

#### ア. 手足（体）を使った計測

#### イ. 目測

#### ウ. 簡易測量

### ⑦ 地図とコンパス

#### ア. 地図の読み方

イ. コンパスの使い方

#### ウ. ゲーム

### ⑧ ハイキング

ア. ハイキング章（特修章）の項目をマスターする。

#### イ. 野帳のつけ方

#### ウ. 追跡ハイクの体験

### ⑨ キャンピング

ア. キャンピング章（特修章）の項目をマスターする。

## (3) 進級について

① 班長への宿題として4月に上進（当時は4月上進）したスカウトを4月末日までに初級スカウトにする。

② 初級スカウト、2級スカウトは班集会で、班長が指導して進級させる。

③ 進級課目終了後は、グリーンバー会議に報告して、名誉会議にかける。

## (4) グリーンバートレーニングキャンプ（まとめのキャンプ）

グリーンバートレーニングのまとめとして1泊2日のトレーニングキャンプを行いました。

① 隊長とグリーンバーのコミュニケーションを第一と考えて計画し、時間的余裕を持つ。

② できれば普段行っている場所ではなく、遠征して毎年同じ場所にするとよい。

③ 参加することがステータスになるように伝統を作る。

④ キャンプファイアは行う（団らんのファイア）

⑤ セレモニー（開会式・朝礼・スカウツオウン・閉会式）を行うことにより、規律、国旗掲揚などの体験の場とする。

\* 次に1983年に実施したトレーニングキャンプの計画書を添付いたします。

## 新任グリーンバートトレーニングキャンプ・プログラム《参考》

1983年10月1~2日 船橋23団キャンプ場

日	時刻	プログラム項目	担当	内容	備考
1	8:00	集合	上班	高根公団東集会所	参加者名簿
	8:15	出発	鬼塚	キャンプ場へ移動 安全確認 自転車の 交通ルール、荷物の積み方	自転車
	8:45	到着	平岡	船橋23団キャンプ場	
	9:00	開会式準備	平岡	国旗、隊旗、	国旗掲揚柱（木）
	9:15	開会式	上班	セレモニー	開会プログラム
	9:30	オリエンテーション	渡来	キャンプ日程の確認	日程表
	9:45	設営指示	平岡	設営役務分担指示 作業服に着替え、設営	作業分担表
				テント3張（指導者、効外、上級者） たちかまど、食器棚、食卓 水穴、フライテント	サイト設計図 備品リスト 工作図
	11:00	設営終了	渡来 隊長	設営点検開始 点検の勉強	点検表 備品表、工作図 サイト設計図
	11:30	昼食準備	鬼塚	お茶、スープの準備	食材
	12:00	昼食		持参弁当にスープ	
	12:30	プログラム準備	渡来	プログラム1の準備	夕朝食材の調達
	12:45	プログラム1 地図作成	上班	キャンプ場周辺の地図作成 班（2名）で1k四方作成 4班で2k四方の地図ができる。	用紙、定規 事前指示済み 上班がまとめる
	14:00	プログラム2 基本	上班	制服に着替える 国旗、基本動作、指示の仕方 上班→班長→班員の確認	着替えの訓練 笛、国旗、隊旗 班旗
	14:45	休憩	上班	作業服に着替える	
	15:00	プログラム3 キャンプファイア準備	平岡	薪組、スタンツの勉強	プログラム 薪
	16:30	国旗降納	渡来	担当者制服、 国旗降納時の当番以外の 効外の行動について話す	当番班
	16:30	夕食準備	平岡	炊事の作業分担について教える	献立表

	17 : 45	夕食		団らんの場として全員で食べる手際よい片付けかたについて	作業分担表
	18 : 30	後片付け	平岡		
	19 : 00	後片付け終了			
	19 : 30	キャンプファイア	上班	団らんの営火	準備品表
	20 : 15	キャンプファイア終了		話合いを多くする（班営火用）	プログラム
	20 : 30	評価反省		一日の評価反省を行う	記録（副長）
	21 : 00	お茶会		和やかな雰囲気を体験させる	資料、お菓子
	22 : 00	消灯準備	鬼塚	歯磨き等の生活習慣について パジャマに着替える。	
	22 : 30	消灯			笛
	23 : 00	点検	隊長		点検表
2	6 : 00	起床	鬼塚		笛
	6 : 15	朝食準備	鬼塚	朝食時の作業分担について	献立表
	7 : 15	朝食			
	8 : 30	点検	隊長	点検の目的、 目標について話す	点検表
	8 : 45	朝礼	渡来	プログラム、司会副長	国旗
	8 : 55	スカウツオウン	鬼塚	スカウツオウンについて話す	
	9 : 00	ハイキング	平岡	簡単なハイキングを実施し 未知の土地で地図とコンパスを体験	
	10 : 30	撤営	平岡	撤営の手順を教える。 役割分担を教える。 上班の指示で行う。	手順表 役割分担表 備品表
		点検	渡来	撤営時の点検ポイントを指導	点検表
	12 : 00	昼食		火を使用しない昼食を用意	
	13 : 00	閉会式			プログラム
	13 : 30	出発	平岡	自転車の交通マナーについて	
				隊スタッフ 隊長： 鈴木 誠 副長： 平岡隆一、鬼塚道浩 渡来一利 上級班長：土屋剛	



## 2. 新任グリーンバートレーニング II (2007 年度版)

私は 1982 年度版で実際に実施し、その後も次期隊長が実施してきましたが、現在の隊長は実施していませんので、あらためて 2007 年度以降に実施するプログラムを作成してみたいと思います。

『パトロールリーダー・ハンドブック』が京都連盟から出版され、一步前進した感はあります。このハンドブックを活用すれば班長の任務は説明できますが、次長の任務についても、もっと具体的な任務を与えた方がやる気につながると思います。特に、次長が班長と同年齢の場合は、次長への配慮と活用に気を配りたいと思います。

一項目目 (1) の班長・次長の任務は 1982 年版の項目を一部改定することでよいと思います。次の (2) 技能項目は新しい進級課目に合わせて作成しました。(1) 班長、次長の任務については、最低限新任グリーンバートレーニングを行う必要があると思います。

### (1) 班長・次長の任務についてのトレーニング

京都府連盟の『パトロールリーダー・ハンドブック』から、項目だけ抜き出してみました。このトレーニングにかける時間は、4 時間程度と見込まれます。

- ① パトロールリーダーとして隊のプログラムを決める。  
班会議⇒グリーンバー会議⇒班集会（開催と参加について）
- ② 班会議・班集会（班キャンプも含む）の目的と目標  
計画書・報告書の作成
- ③ 班員の役務分担  
通常時の役務、キャンプの役務、班任務章
- ④ 班費の使い方  
班費は、次長が管理し班長と相談して班のために使用する。班集会のお菓子代に使用してもよい。
- ⑤ 進級課目の指導と考査について  
班集会は進級課目を班長が指導する場であり、また考査する場である。
- ⑥ 班員の進級申請について  
グリーンバー会議への報告と承認
- ⑦ 班備品の管理（担当者を決めて行う）  
班旗、班ノート、書籍、地図、炊具、工具、班の色
- ⑧ 連絡網の確立と活用ルール  
新入班員の指導と途中チェック体制の確立、最終確認  
集会への班員出欠の把握

次の 2 つの項目は、『パトロールリーダー・ハンドブック』には載っていないので、

後記の「班制教育のツール」(p.31) を参照してください。)

- ⑨ 班ノートの使い方  
班の伝統と名誉について  
記入は自由であり班の記録帳として活用する。
- ⑩ 班競点  
ルールを決める。



以下、1項目ずつ指導内容の細目を説明します。

### ① 年間プログラムプロセスについて

#### 隊のプログラム

ボーイ隊の年間プログラムは通常9月から8月で、夏の隊キャンプをメインに考える仕組みになっているのに、新グリーンバーは8月の末か9月に決まります。

新しい年度のプログラムは誰が決めるのでしょうか、新しいグリーンバーが自分達で決めるべきです。そのため、私が以前実施したように、グリーンバートレーニングで隊プログラムのプロセスについてトレーニングした後に、10月から9月の年間プログラムを決めた方がよいと思います。

新しいグリーンバーが自分達でやってみたいプログラムを話し合い、9月のグリーンバー会議で決めるのです。前年のプログラムを参考にはしますが、できるだけ自分達で考えることの大切さを教えます。(A9-4 班議長)

班で決めたプログラムをグリーンバー会議に提出して、他の班との調整を行い、隊としての年間プログラムを決定します。そのためには、班長は班の代表として、自分の班のプログラム内容を説明できるようにしておかなければならぬことを教えます。

9月のプログラムについては、例年同じ活動（テーマ：メンバーシップ、内容：新しい班の確立）でよいと思いますし、できれば一泊班キャンプをすると効果が上がると思います。

#### 班のプログラム

班のプログラムは、各班が班会議で決めるように指導します。内容は特に進級課目を中心に活動するように、毎月の具体的項目を明記するように教えます。

班員の進級状況を確認し、個人目標（今年度の進級目標）を設定させるように指導します。

あとは、楽しく自由に、遊び（班キャンプ、班ハイク、野外ゲーム）を取り入れるように話をします。室内ゲーム（テレビゲーム、ゲーム機等）はできるだけ禁止する

ように、上級班長の指導のもと、班長同士の話し合いで決めさせるとよいと思います。

### 実際のプログラム作成

実際には9月のグリーンバー会議で年間プログラムを作成するのですが、ここで隊長として必要なことは、年間プログラムに必要な資料を8月中旬に班長に渡すということです。そうすると、自分達でプログラムを作る雰囲気ができる、班集会がしやすくなると思います。必要な資料とは次のようなものです。

- a. 夏のキャンプ候補地・使用施設等の資料（できれば複数）。簡単な取り寄せ方は、その県（または、その市町村）の観光課に電話するとよい。
- b. 昨年のプログラムより新しい資料（団近隣の施設、名所、新しい遊び等）をできるだけ集めて渡すとよい。

また、プログラムに記入するのに必要な項目を明確にします。最低は、「何をしに」「どこへ行くのか」です。

この段階では、進歩課目は考えない方がスカウトの発想が自由になると思います。隊長としてプログラムに取り入れたいものがある場合は、この時点で資料を渡し、楽しさをPRしておくとよいと思います。

## ② 班会議・班集会（班キャンプも含む）『パトロールリーダー・ハンドブック』 (p.24 ~)

班会議・班集会は、月2回以上開催する必要があることを説明する（進級課目A1－4発言、B9－6班司会）

1回は、隊集会の準備、もう1回は、班としての集会で進級課目などを行う。

特に進級の権限を班長に委譲することにより、班集会の出席率向上に結びつけられると思います。

### ・班会議（班集会）計画書の記入の仕方

書式にとらわれることなく、隊で決めるといい。最初はあまり項目を増やさず、簡単な記入しやすい書式からスタートするとよいと思います。

サンプル：『パトロールリーダー・ハンドブック』(p.31)

### ・班キャンプ計画書の作成について（『パトロールリーダー・ハンドブック』p.110を参照）(B9－4 キャンプ案内)。

班キャンプが多く行われる隊は、素晴らしい隊だと思います。

班キャンプ計画書の作り方は、必要項目を明確にしてよく指導してください。

①目的（なんのため）、②目標（なにをどうする）③日時、④場所、⑤参加者  
⑥費用、⑦プログラム（時間割）、⑧献立、⑨備品、⑩役務分担

報告書も含めてベンチャー活動につながる内容で進歩させる。

### ・進級計画書の作成について

班員と話し合ってスカウト一人ひとりの進級計画書を作成できるように指導してください。

特に、班集会で計画に沿って活動できるように話してください。

サンプル：『スカウトハンドブック』(p.54)

### ③ 班員の役務分担（A1 – 2 班役務）班任務章の活用

a. 通常時の役務（『パトロールリーダー・ハンドブック』p.50 活用）

- ・班長：総括責任者（A9 – 1 率先垂範）
- ・次長：アシスタントパトロールリーダー、会計
- ・記録：集会その他の記録、班ノートへ記入
- ・備品：班備品の管理、調達（B9 – 2 班備品）
- ・安全：救護箱の管理。安全担当副長と連絡、指導を受ける。
- ・レクレーション：ゲーム、ソング
- ・環境：自然愛護
- ・任務章について（『パトロールリーダー・ハンドブック』p.50 活用）

#### b. キャンプ時の役務

キャンプが長期間行われる場合は、班長、次長以外の役務については、進級課目の関連により交代で行った方が全員が体験できる場合がある。

- ・班長：総括指揮者として全体の動きを把握し指示を出す。
- ・次長：班長を補佐して作業等の遅れをカバーする技能者になる。
- ・会計：キャンプの出納係（次長が担当）
- ・記録：活動記録をとる。
- ・備品：班備品の管理（リストの作成）、工作資材の管理
- ・食料（炊事）：食材の管理、献立の作成、炊事当番
- ・燃料（薪）：燃料の確保
- ・水：水の管理調達
- ・整理整頓：テント内、テントサイトの整理整頓
- ・安全・救護：救急箱の管理、テントサイトの安全確認、衛生管理
- ・レクレーション：ゲーム、ソング
- ・環境：自然愛護

### ④ 班費（B9 – 3）

公金を取り扱うことにより教育的効果がありますので、少額の徴収、管理を次長の仕事として行うことをお勧めします。

・徴収：月初めの班集会で集金する。遅れてまとまるとなれば毎月集める。

- ・記録と使い方：金銭出納帳の記入の仕方を指導、使い方は班で決める。  
指導チェックは、会計担当副長が行うとよいと思います。

#### ⑤ 進級課目の指導（A1 – 3 技能指導）

- ・初級スカウト：上進後 2 か月以内に班長が指導して進級させる。
- ・2 級スカウト：班集会で技能指導をする。6 年生のうちに進級するようにする。
- ・1 級スカウト：班集会で技能指導して、中 2 の 6 月までに進級するようにする。
- ・個人進級計画表の作成をし、班員の進級責任は班長であることを伝える。

(B9 – 5 進級計画)

\*グリーンバートレーニング終了後初級、2 級、1 級、菊の全課目について再確認する。

#### ⑥ 班員の進級申請について

- ・班長が隊長に申請して班長会議（名誉会議）で承認し決定する。
- \*特に権限の委譲として班長が認めたものは、承認する。



#### ⑦ 班備品の管理（持ち物には、班の色を付け管理担当者を決める）

- ・班旗：次長
- ・班ノート：班長（グリーンバー会議に持参させる）
- ・書籍・資料：班長（グリーンバー会議に持参）  
(『パトロールリーダー・ハンドブック』『スカウトハンドブック』『スカウティング・フォア・ボーイズ』『ボーイスカウト歌集』『スカウトフィールドブック』『日本の国旗』『地図とコンパス』『四季の星座』『ロープむすび』『育成会総会資料』『進歩計画書』)
- ・班費出納帳：次長（グリーンバー会議に持参）
- ・地図：班長（グリーンバー会議に持参）(習志野、白井、船橋 25000 分の 1)  
必要に応じて夏キャンプ地等の地図
- ・炊具・工具：備品係（一覧表の作成、班ノートに記録）
- ・その他

#### ⑧ 連絡網の確立と活用ルール（班ノートに記録）(B9 – 1 班名簿)

- ・連絡網：電話メモの取り方（日、時間、場所、持ち物、服装）を指導する。
- ・活用ルール：中間に次長を入れてチェック機能をつける。  
最終報告が班長にくるようにする。  
電話連絡をする時間帯（班内でルール化する）  
班員が留守の場合のルール（班内でルール化する）

- ⑨ 班ノートの使い方（詳細は班制教育のツール項目を参照してください）
- ・班の行動目標（A1－1 班の目標）
  - ・班の伝統と名誉について
  - ・記入の仕方：原則自由であるが、できるだけ記録を残すように指導し、班の伝統を守ってゆく。
- ⑩ 班競点（実施する場合）
- ・目的の説明
  - ・班競点のルールを決める。ルールはその年度によってグリーンバーに決めさせるとよいと思います。
  - ・詳細内容は、ツール項目を参照してください。

## (2) 技能（進級課目）

- ① 基本
- ・ベーデン・パウエル（B－P）について話す。  
『スカウトハンドブック』(p.282) を活用する。  
『スカウティング・フォア・ボイズ』を説明する。
  - ・「ちかい」と「おきて」の理解と実践について（菊章1－1）  
「ちかい」と「おきて」の理解度を確認して日常生活の実践について具体的に説明する。（いじめ、資源の節約、時間を守る、約束を守る、班長の任務を遂行するなど）  
「おきて」は日常行動の指針であり、実際行動で実践することを説明する。
  - ・国旗の取り扱い方（初級1－3）（A4－3 国旗）  
実際に掲揚して指導しないと、言葉では身に付かないので、グリーンバー・トレーニングキャンプ等の多くの機会を作り体験指導が必要です。  
『スカウトハンドブック』(p.34) を活用する。



- ② 結索
- ・進級課目E5（ロープ結び）を指導し、班員に指導できるようにする。  
スカウトロープ以外に、トレーニング用のロープ（太さ約5mm、長さ1m）をスカウト全員に持たせ、いつでもトレーニングできるようにするとよいと思います。  
グリーンバートレーニングでは、結索訓練用に太さ約5cm、長さ約50cmの棒

を4～8本用意すると、教えるのに便利です。

『スカウトハンドブック』p.228「ロープ結び」を活用する。

### ③ 通信

- ・進級課目 D3（通信）を指導する。  
『スカウトハンドブック』(p.143)「追跡と通信」を活用する。
- ・手、笛の合図を体験する。
- ・簡単な追跡ハイクを体験させる。
- ・手旗信号は、まず自分の名前を発信できるようにして次のステップに進む。
- ・モールス信号および手旗信号は、指令文を作成する時に活用すると使用する機会が生まれ、暗号文としておもしろいです。  
(例) · - · · · - · · - - · - (おはよう)  
(例) 1、2、3、 10、 8、6、 6、9 (おはよう)  
この記号で指令書を作成し、ハンドブックを見て解読させる。

### ④ 救急

- ・進級課目 B5（救護）を指導する。  
『スカウトハンドブック』(p.290)を活用する。
- ・班用救急箱の内容と使用について
- ・特に包帯の使用方法は指導する。
- ・できれば、消防署の講習会等に参加する（船橋市は5日・15日・25日にどこかの消防署でやっている）。  
参加は隊集会でもよいと思う。ボイスカウト活動を地域社会に理解していただくことと、スカウトが地域社会の活動を理解するために役立つと思います。



### ⑤ 安全

- ・進級課目 B2（安全）を指導する。  
『スカウトハンドブック』p.178「野外活動での安全」を活用する。
- ・正しい知識、技能と方法の実施が安全を守る第一であることを教える。（ルールの厳守）
- ・ハイキングの交通ルール（信号、歩道、歩道橋、右側通行など）
- ・刃物の取り扱い方（『スカウトハンドブック』p.188を活用する。）  
よく切れる刃物が安全で、切れない刃物は怪我のもと、普段の手入れ方法を指導する。研ぎ方等は外部のインストラクターを活用する（当団は昔大工さんにお願いしていました）。

- ・火の取り扱い方：必要なだけの小さい火を燃やすこと。
- ・睡眠の重要性：睡眠は健康の基本であり野外活動の基本である。寝不足は注意力が緩慢になるのがしやすい。
- ・整理整頓の重要性：整理整頓が自分を含めて班員全員の安全を守るので、日ごろから習慣になるように教育する。
- ・『パトロールリーダー・ハンドブック』(p.94) を活用する
- ・NKYT の実習、N = 新 (New)、K = 危険 (Kiken)、Y = 予知 (Yochi)、T = 訓練 (Training)

#### ⑥ 計測

- ・進級課目 D2 (計測) を指導する。  
『スカウトハンドブック』 p.126 「計測」を活用する。
- ・体のサイズは、成長期なので6か月ごとに確認が必要であることを教える。
- ・実際に計測訓練を行う。

#### ⑦ 地図とコンパス

- ・進級課目 C2 (読図) を指導する。  
『スカウトハンドブック』(p.92) を活用する。
- ・三角点、水準点は、実物を見せる。  
隊としてスカウトに見せる三角点、水準点を事前に調べて確保しておくとよいです。  
水準点は地中深く埋もれていることが多いので、注意して探してください。

#### ⑧ ハイキング

- ・進級課目 C1 (ハイキング企画) を指導する。  
『スカウトハンドブック』 p.61 「ハイキング」を活用する。
- ・2km 程度のトレーニングハイキングを実施し、野帳を付ける訓練をして、現在地の確認、方位等の実地訓練をする。  
普段歩く速度 (4 ~ 5km/1 時間) に比べ、スカウトのハイキングでは課題等があるので歩く速度が遅くなる (2 ~ 3km/1 時間、追跡ハイクは 2km 程度になる) ことを実証する。

#### ⑨ キャンピング

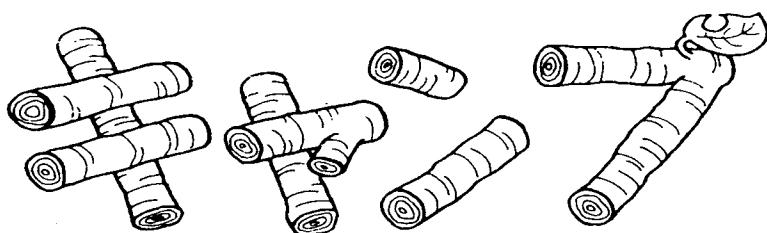
- ・進級課目 E1 (キャンプ企画) ・ E6 (焚き火) を指導する。  
『スカウトハンドブック』(p.258 ・ p.194) を活用する。
- ・スカウト技能の基本としてグリーンバーキャンプを実施して指導することが必要

だと思います。

- ・野営工作（四角錐のたちカマド、三角錐の食器棚等班別にパートを用意して班キャンプでも使用できるように）を教えてください。
- ・料理は、残飯が出ない量の調理を教える（エコキャンプの基本）。
- ・キャンプ備品の手入れ等も教える。

備品は、班別に備品箱を用意して、班別に備品係りに管理させる。特に衛生面を重視してよく乾燥してから格納する事を教える。

また、布製（布巾、雑巾等）木製（菜ばし、まな板等）はカビが出やすいので備品箱と一緒に格納しないように教える。



### (3) 新任グリーンバーのトレーニングキャンプ

グリーンバートレーニングのまとめとして1泊2日のトレーニングキャンプを行うとよい。

- ① 隊長とグリーンバーのコミュニケーションを第一と考えて計画し、時間的余裕を持つ。
- ② できれば普段行っている場所ではなく、遠征して毎年同じ場所にするとよい。
- ③ 参加することがステータスになるように伝統を作る。
- ④ キャンプファイアを行う（団らんのファイアとして）
- ⑤ セレモニー（開会式・朝礼・スカウツオウン・閉会式）を行うことにより、規律、国旗掲揚などの体験の場とする。
- ⑥ 進級課目E1・E6を実施指導する。

サンプルは、前項(p.11)と次ページの「新任グリーンバートレーニングキャンプ・プログラム」を参考にしてください。

## 新任グリーンバートレーニング・キャンプ計画書（2006年）

目標：①基本事項を教える。 ②チームワークをよくする。

③隊内の指示系統が見えるようにする。

日時	10月7日9時～8日16時		場所	大神保キャンプ場
テーマ	ヤーヤーヤー	活動分野	健康と発達	
当番班	サンダー班	関連進歩	A9. リーダーシップ	
時間	項目	担当	内容（その他）	
9:00	集合完了	伊藤 ASL	団倉庫前、出席者確認 使用備品一覧表 伊藤 ASL の車に備品を乗せる 安全確認：自転車の交通ルール 荷物の積み方	
9:30	出発	丸上班	コース確認	
10:00	大神保キャンプ場着	伊藤 ASL	人員点呼	
10:15	キャンプサイトへ移動	丸上班	運搬用リヤカー借用	
	準備	木田 ASL	国旗、隊旗、（開会式次第）	
10:45	集合	丸上班	全員整列（U型）	
10:50	開会式 開会	木田 ASL	（プログラム副長司会）	
	国旗掲揚		当番班、サンダー班	
	隊旗儀礼			
	歌		「懐かしの野営地」	
	隊長の話	大西 S L		
	閉会			
11:15	オリエンテーション	木田 ASL	今日のプログラムと安全注意 時間割り、作業内容、 安全注意事項	
			献立表	
11:30	昼食準備	伊藤 ASL	*昼食終了後夕朝の食材の調達	
12:00	昼食		設営の指示、役務分担 備品表 作業服に着替える、軍手	
13:00	プログラム1：設営	木田 ASL	テント3張（スカウト、指導者、 上班は個人で1張） たちカマド、食器棚、食卓、 フライテント	

			*時間を掛けて指導する。
15 : 00	休憩	伊藤 ASL	お茶
15 : 30	設営点検	大西 S L	点検の勉強 設営状況をサンプルに指導する。
16 : 00	夕食準備	伊藤 ASL	献立表
16 : 30	国旗降納	木田 ASL	当番班：サンダー班 国旗降納時の当番以外の 効率の行動について話す
18 : 00	夕食		夕食時薪を組む
19 : 00	プログラム 2 キャンプファイアー	木田 ASL 丸上班	簡単なプログラム 団らんのキャンプファイアー
20 : 00	グリーンバー会議	大西 S L	別紙計画書
22 : 00	消灯準備	丸上班	テントサイトの整理整頓
22 : 30	消灯 点検完了 リーダー打合せ	木田 ASL 大西 S L	点検表 明日のプログラム
23 : 00	全員消灯		
6 : 00	起床	木田 ASL	
6 : 30	朝食準備 朝食	伊藤 ASL	献立表 (パン食)
8 : 15	当番班交代	大西 S L	
8 : 30	点検		点検表、点検の目標について話す
8 : 45	朝礼 開会 国旗掲揚 隊長の話 歌	木田 ASL 当番班 大西 SL 当番班	国旗掲揚 隊長の話 歌
9 : 00	プログラム 3 国旗	大西 S L	・国旗掲揚、降納 (3回練習)
9 : 45	プログラム 4 規律	丸上班	・集散方法、特に報告の仕方 ・集散時の位置 ・身振り信号、笛の合図
10 : 30			*笛で隊全体が動くとスマートに

			見える。
11：30	昼食	伊藤 ASL	おにぎり弁当、お茶
12：15	撤営	木田 ASL	撤営指示（役務分担表、備品表） 撤営終了後点検を指導
13：30	撤営完了		制服に着替える
13：45	閉会セレモニー 開会 隊長の話 歌 国旗降納	木田 ASL 司会 大西 SL 当番班 当番班	
14：15	出発準備	伊藤 ASL 木田 ASL	リヤカーで荷物をキャンプ場の駐車場へ運搬 使用備品一覧表 伊藤 ASL の車に備品を乗せる 安全確認：自転車の交通ルール 荷物の積み方
14：45	出発	丸上班	コース確認
15：30	団倉庫前着		
16：00	備品格納完了	木田 ASL	備品表
16：15	解散	伊藤 ASL	全員解散（解散指示上班）

時間に余裕を持って基本事項を正しく指導する。

できるだけスカウト（班長、次長）と多く会話して人間関係をよくする。

指示に笛を用いて今後の活動がスマートになるようにする。大人が声を出すと外部から見えていて、スマートに見えない。

規律をしっかりと指導する。「ちかい」「おきて」の実践になる。

献立は、トレーニングを中心に簡単なものにすると時間ができる。

### 3. 常時行うグリーンバートレーニング

通常のグリーンバートレーニングは、グリーンバー会議そのものがトレーニングですが、技能面から考えるとプログラムに合わせてその都度トレーニングが必要なると思います。

年間プログラム、月間プログラムから班長会議、隊プログラム、グリーンバートレーニングまでの流れをサンプルで提示してみたいと思います。

## 【プログラムのサンプル】

実際に展開した隊集会プログラムとグリーンバートレーニング内容のサンプルを記述してみたいと思います。

### 年間プログラム（サンプル） 年間活動計画（2006年9月～2007年9月）

隊の目標：①感謝の心をいつも持つ。 ②報告を必ずする。

		9月	10月	11月
テーマ		スクラム組んで	ヤーヤーヤー	サンキュー
活動分野		スカウト精神	ハイキング	健康と発達
目標		新しいスカウトを仲間としてチームワークを作る。	チームワークの良さを行動で示す。	健康管理の大切さを知り、実行する。
共通とする進歩課目	A1 メンバーシップ	C1 ハイキング企画	B4 運動能力	
活動	隊	歓迎隊キャンプ	関所ハイク 進級調査	スポーツ大会
	班	連絡網作成 役務分担作成 班について話す	班進級計画書作成 班ハイク	進級課目 B 健康と発達の取得
	個人	新しい役務について内容を確認する	進級計画書作成	健康管理について考える
集会	隊	10日（日）上進式 16-17日キャンプ	22日（日）集会	23日（水祝）
	班	10日（日）上進式後 （各自で記入）歓迎班集会	9日（月祝）集会	19日（日）集会
	班長訓練	10日（日）夜	7-8日訓練キャンプ	11日（土）夜
	班長会議	9日（土）夜	7日（キャンプ中）	11日（土）夜
	地区・団など	18日（祝）スカウトの日午前中奉仕活動 18日募集集会	1日（日）育成会総会	12日（日）募集説明会
当番班	サンダー班	ジャガー班	サンダー班	
ソング	そなえよつねに	どこまでもゆこう	岩をぶっちわり	
ロープ結び	ひとえつぎ	てこむすび	もやいむすび	
備考	年間プログラム作成 総会資料作成	公民館バザー		

## 月間活動計画プログラム（サンプル）

2006年10月

テーマ	ヤーヤーヤー	活動分野	ハイキング
目標	新しい仲間との絆を深める。 新役務を実行する。		
関連進歩	C 1 ハイキング企画	ソング	どこまでもゆこう
隊集会	22日（日） 関所ハイク	当番班	サンダー班
班長訓練	7-8日新任 GBトレーニングキャンプ	班長会議	7日夜
班	班の活動	区分	プログラムの内容
サンダーバイ 班	9日（月祝）東集会所夜  15日（日）夜		関所ハイクの作戦会議 進級計画書の作成  11月の隊集会について 進級
ジャガ 班	9日（月祝）東集会所夜  14日（土）夜		関所ハイクの作戦会議 進級計画書の作成  11月の隊集会について 進級

【参考】役務を明確にすることにより参加自覚を促す。

当番班の任務（各隊の班長会議で話し合いで決めるとよい）

- (1) 隊旗の管理（保管、隊集会のセット）
- (2) グリーンバー会議の記録（当番班次長）
- (3) 国旗の掲揚当番
- (4) ソングリーダー（隊集会中一つ以上は担当させる事により自覚）
- (5) ゲームリーダー（隊集会中一つ以上は担当させる事により自覚）
- (6) 集会の準備作業
- (7) 上級班長が欠席の場合は、集散の担当

## グリーンバー会議計画（サンプル）

日時	10月7日 20:00~22:00	場所	大神保キャンプ場
テーマ	ヤーヤーヤー	活動分野	健康と発達
当番班	サンダー班	関連進歩	B4運動能力
時間	項目	担当	内容（その他）
20:00	集合完了	伊藤 ASL	お茶、お茶菓子の用意 記録用紙の用意
20:05	開会	丸上班	出席確認 セレモニー（歌、おきて）
20:10	隊長の話	大西 SL	来月のプログラムについて
20:15	役割確認	丸上班	当番班、サンダー班 記録：伊東次長
20:18	会議（議題確認） スポーツ大会種目	丸上班	11月のプログラムについて (決める事項) (班ノートに記録) 日時、場所、内容（種目） 採点ルール 基本的持ち物 持参禁止品（繰り返し教育）
21:30	決定事項の確認	木田 ASL	安全ルール確認
21:40	隊からの連絡事項	記録係り 伊藤 ASL	サンダー班伊東次長 次回班長会議日を確認 12月の予定を確認する。 (スカウトの都合で調整もある)
21:50	隊長の話	大西 SL	会議内容を評価する。 出来れば褒める
21:55	閉会	丸上班	セレモニー（歌、おきて）
	進級チェック	木田 ASL	進級状況を確認する

## 隊集会プログラム

日時	10月22日 ~16:30	場所	船橋市東部、北部
テーマ	ヤーヤーヤー	活動分野	ハイキング
当番班	サンダー班	関連進歩	C1ハイキング企画
時間	項目	担当	内容(その他)
	ハイキング出発時間は 7時~9時の間自由 ただし、2日前に副長に 出発時間を登録 登録順に調整して決める  プログラムの展開  関所4箇所 1. ロープ 2. 計測 3. 手旗 4. 救急  移動 S⇒1 座標 1⇒2 方位角と距離 2⇒3 コマ図ハイク 3⇒4 追跡ハイク 4⇒G 地図記号  閉会セレモニー 集合 歌 隊長の話 表彰	伊藤 ASL  丸上班 大西 SL 平澤 V S 木田 ASL	事前に指令書は配布しておく ただし、開封は当日出発時 移動中は「ちかい」「おきて」の 実践(交通ルールの厳守) 野帳の記入 ゴール時間は、午後4時 3時に伊藤副長に報告 距離：約15Km 地図：習志野1/25000  初級・2級・1級課目から 初級・2級・1級課目から 自分の名前、15文字の文章 初級・2級・1級課目から (伊藤 ASL は自宅待機連絡係り)  ポイント到着後次の指示書を 渡す。
16:00		木田 ASL 丸上班 当番班 大西 SL	ハイキングの評価 表彰項目に合わせて表彰

16 : 30	国旗儀礼 閉会 進級のサイン指示	司会 伊藤 ALS	三脚で国旗を準備する。  班長に今日履修できた課目を 指示する。
---------	------------------------	--------------	---

評価点数は、各関所の問題 1 問に付き 10 点（10 点法で採点）  
初級、2 級、1 級で合計 30 点×関所 4 = 120 点プラス出席率

### このプログラムのグリーンバートレーニング（通常のグリーンバートレーニング）

このプログラムを楽しく、安全に展開するために必要な技能は、読図、コンパスの使い方と安全な行動ですので、この 3 点を確認してトレーニングが必要と隊長が認めた場合は行う。

安全についてはトレーニングをした方がよいです。

① コンパスと読図：スカウトハンドブック (p.92) を活用して行う。

座標の読み方、方位の読み方、直線距離と実際距離の測り方、地図記号、コマ地図の見方

② 安全：交通ルールの確認、移動中は走ることを禁止する。

朝の出発時に NKYT を実施させるために、NKYT の仕方を教える。

N = 新 (New)、K = 危険 (Kiken)、

Y = 予知 (Yochi)、T = 訓練 (Training)

③ ハイキング中の役割分担を明確にするように教える。

④ 「ちかい」「おきて」の実践について教える。

交通ルールの厳守、役割分担の厳守、他人に迷惑を掛けない、自動販売機の使用、自然保護、ゴミ処理などのルールについて話し合い、班長に決めさせる。

⑤ 野帳の記入方法を教える。

⑥ 報告書の書き方：報告書の書き方については、項目ごとに教える。



## グリーンバートレーニング計画（サンプル）

日時	9月9日 18:00~21:45	場所	高根台東集会所
テーマ	ヤーヤーヤー	活動分野	ハイキング
当番班	サンダー班	関連進歩	C1 ハイキング企画
時間	項目	担当	内容（その他）
18:00	集合完了	伊藤 ASL	記録用紙の用意（記録伊藤 ASL）
18:05	開会	丸上班	出席確認
18:10	隊長の話	大西 SL	セレモニー（歌、おきて）
18:15	訓練1 読図	木田 ASL	関所ハイクについて
18:45	訓練2 コンパス	丸上班	スカウトハンドブック活用
19:15	訓練3 安全	大西 SL	スカウトハンドブック活用 N K Y T の実施
20:00	訓練4 交通ルール	大西 SL	守るルール、禁止ルール
20:15	訓練5 「ちかい」と「おきて」の実践	丸上班	他人に迷惑を掛けない 自販機、ゴミ、自然愛護 役割分担との関係を班長が話し合って決める。 (出来るだけ自主的に運営する)
21:00	訓練5 野帳	木田 ASL	記入の仕方確認
21:20	訓練6 報告書	大西 SL	報告書の記入について
21:30	閉会	丸上班	セレモニー
21:40	解散	伊藤 ASL	公民館の使用時間厳守 21:45

### Ⅲ. 班制教育のツール

班制教育を進めるためにいろいろなツール（道具）が必要です。私は、次のツールを活用しましたので紹介したいと思います。

一つひとつは、たいしたツールではありませんが相乗効果で班制教育の役に立ったと思っています。

#### 1. 班別章と班旗

船橋 6 団の隊長を受けた時のボーイ第 2 隊の四つの班名は「コンドル班」「ハヤブサ班」「タカ班」「ワシ班」でした。この四つの班名はすべて猛禽類で特長がよく似ていますので、各班の「精神」「活動目標」「班呼」これが四班とも似通ってしまい、あまり班の特長が出ませんので、1971 年 9 月にグリーンバー会議で班名について話し合いました。

その結果班名を班長が変更したいと言い出しまして変更することになり、各班で検討に入りました。

出てきた班名は「コマンチ班」「ムスタング班」「サンダー班」「ジャガー班」でした。この班の班マーク、班精神、班呼、行動指針を決めることにしました。

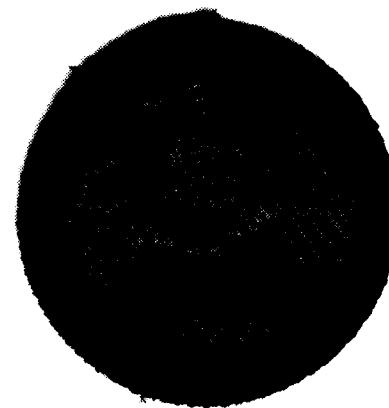
班マークですが、この時点で 4 色までなら使用してよいことに決めました。今まで黒と赤の 2 色に班マークからカラーに変えられることを知ったグリーンバーは大喜びまして、各自の班マークのデザインを作り提示してきました。それが現在船橋第 20 団ボーイ隊の使用している班マークです。

他の隊の黒と赤の 2 色に比べて見栄えもよく、班のシンボルとして誇れるものです。

班旗もお母さん方の協力を得て、フェルトを切ってミシンで縫い班マークと同じカラーで出来上りました。

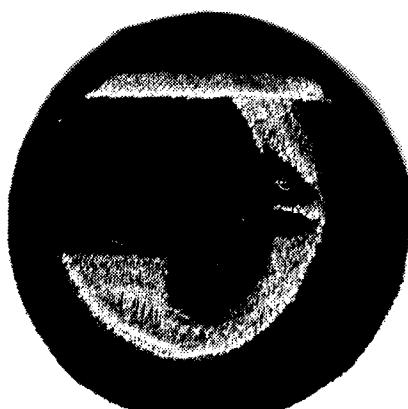
自分達が考えてデザインして出来た、班マーク、班旗についても、グリーンバートレーニングで各班長、次長に伝え班のシンボルとして誇りを持たせています。

【 班マーク参考 】



日本連盟で販売している  
2色のマーク

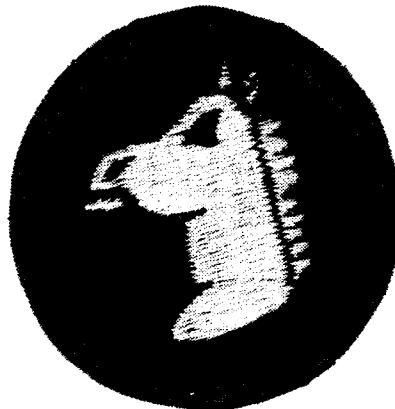
↓ 下は当団の班マーク



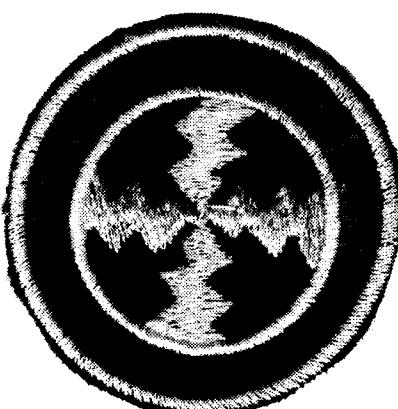
ジャガー班



コマンチ班



ムスタング班



サンダー班

## 2. 班ノート

班ノート！ あまり耳にしない言葉ですが、班名を新しくすると同時に取り入れた道具です。

これも 1967 年当時鈴木國夫さんが作成し、市原 1 団で使用していた班日誌を、スカウトが記入しやすいように自分なりに改良したつもりです。

当時は B5 サイズの表紙の硬いノートを使いました。

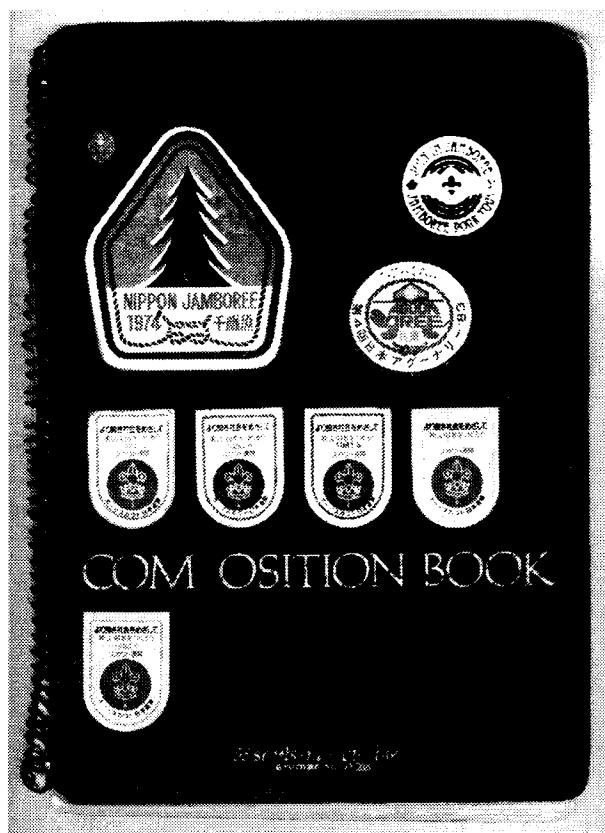
1 ページ目に「班マーク」と「班名を決定した由来」、2 ページ目は「班精神」「班呼」、3 ページ目は、歴代班長、次長の氏名が記入されています。

特に歴代班長、次長名は先輩と大きなつながりとなってその班の歴史を物語ることになります。

4 ページ以降は、その年の班員名簿（役務分担など）、連絡網、備品簿、班集会、グリーンバー会議の記録帳です。あまり記入内容については隊指導者としては干渉しないようにして記入させました。

3、4 年経ちますと、自然に班の伝統と歴史が出来上がり、記入内容に班のカラーも出てきます。

このノートを班長の引継ぎ教材として引継ぎ式を行い、新グリーンバートレーニングの材料にして、班長、次長を教育しました。



古い班ノートの表紙

(1978 年 9 月～ 1984 年 8 月船橋第  
20 団マンチ班)

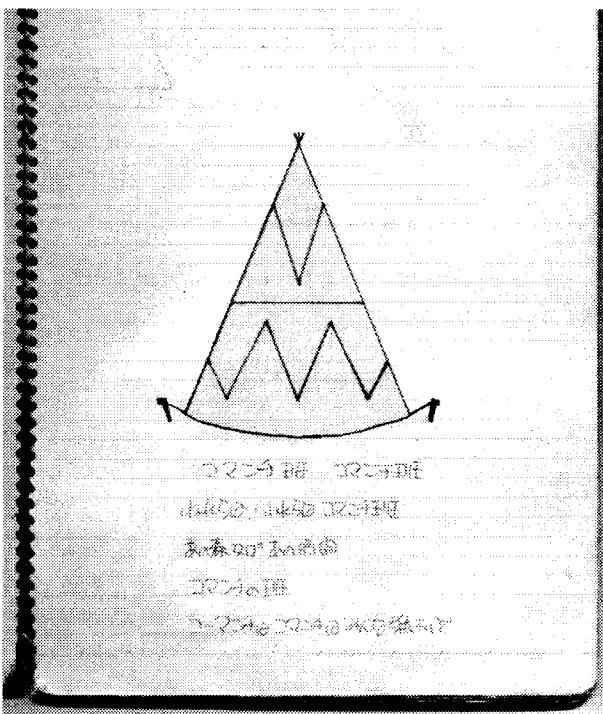
班の目標

班精神

班員の任務

班の歴史

## 【1 ページ目】



班マーク

## 【2 ページ目】

### コマンチの由来

コマンチ族は、アメリカインディアンの中で最も野生的な種族である。ボイスカウト活動で最も自然に親しむものとして野外活動がある。

コマンチ族が自然を愛したようにわが班も野外活動においてその精神を受け継ぐために、この名前をついた。

### 習性

わが班は、コマンチ族のように自然を愛し、自然に親しむ。そして野外活動において最も的確な行動をし、野営、ハイクを好む。

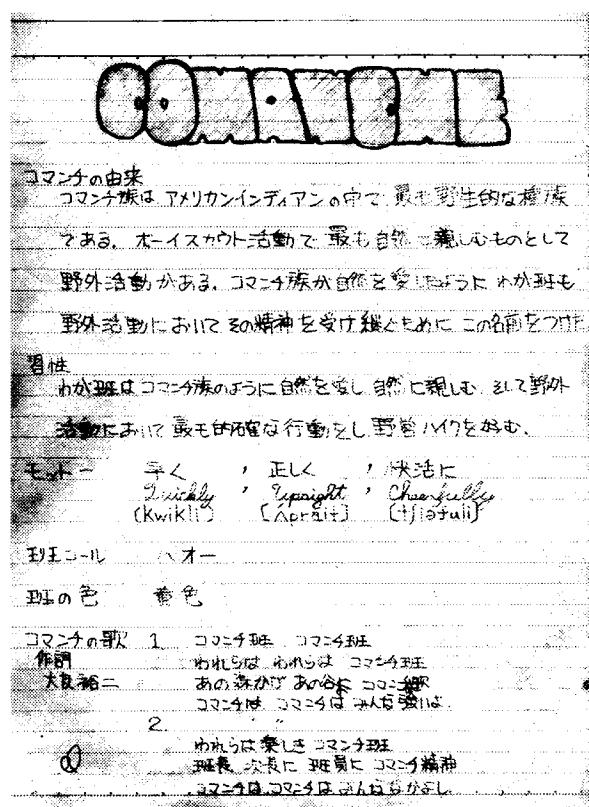
モットー	早く	正しく	快活に
	Quickly	Upright	Cheerfully
	[kwíkli]	[ʌprít]	[tʃíəfali]

班コール ハオー

班の色 黄色

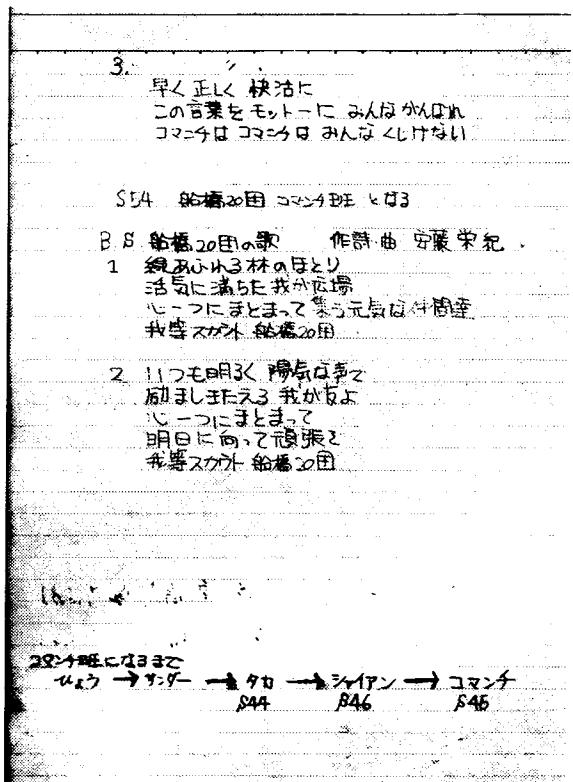
### コマンチの歌

1. コマンチ班 コマンチ班  
われらは われらは コマンチ班  
あの森かげ あの谷間 コマンチの歌  
コマンチは コマンチは みんな強いよ
2. コマンチ班 コマンチ班  
われらは楽しき コマンチ班  
班長 次長 班員に コマンチ精神  
コマンチは コマンチは みんななかよし



【3 ページ目】へ続く

【3ページ目】



3. コマンチ班 コマンチ班  
早く 正しく 快活に  
この言葉を モットーに みんながんばれ  
コマンチは コマンチは みんなくじけない

S54 船橋 20 団 コマンチ班 となる

(注 昭和 54 年、船橋 6 団から分封して船橋 20 団のコマンチ班となったことを指す)

BS 船橋 20 団の歌 作詞・曲 安藤栄紀

1. 緑あふれる 林のほとり

活気に満ちた 我が広場

心一つにまとまって 集う元気な仲間達

我等スカウト 船橋 20 団

2. いつも明るく 陽気な声で

励ましきたえる 我が友よ

心一つにまとまって

明日に向かって頑張るぞ

我等スカウト 船橋 20 団

コマンチ班になるまで

ひょう → サンダー → タカ → シャイアン → コマンチ  
S44 S46 S46

#### 【4ページ目】

	班長	次長	期間
初代	後藤裕美	片岡達文	S46.9.1～S47.8.31
2代目	吉野建一	大庭裕二	S47.9.1～S48.8.31
3代目	川北裕司	小林八尋	S48.9.1～S49.8.31
4代目	小林八尋	中尾信浩	S49.9.1～S50.8.31
5代目	中尾信浩	後藤剛	S50.9.1～S51.8.31
6代目	秋沢義宏	後藤剛	S51.9.1～S52.8.31
7代目	海老原良	山下恵資	S52.9.1～S53.8.31
8代目	大橋啓樹	大塚雅己	S53.9.1～S54.8.31
9代目	浅野一明	中村洋一	S54.9.1～S55.8.31
10代目	中村洋一	本多史彦	S55.9.1～S56.8.31
11代目	平岡隆司	本多史彦	S56.9.1～S57.8.31
12代目	大橋工	小枝康	S57.9.1～S58.8.31
13代目	平岡則夫	木村勇一	S58.9.1～S59.8.31
14代目	木村勇一	上野ひろし	S59.9.1～S60.8.31
15代目	井上秀樹	上野ひろし	S60.9.1～S61.8.31

歴代班長・次長名 初代～15代

(S.46.9～S.61.8)

班ノートは、記録が分散しないで  
次々と引き継がれるので大変よい記  
録になります。

### 3. 班費

スカウトにお金を取り扱わせることでいろいろな勉強になると思い、班費を設けて次長に管理させました。

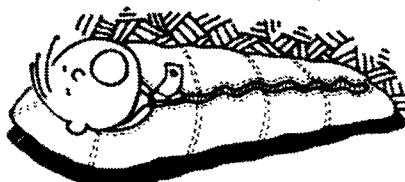
- ①徴収のために班員とのコミュニケーションが生まれる。
- ②使用方法は班会議で話し合い、自由に決めさせる（班集会でのお菓子の購入もよい）。
- ③出納簿を記入させて、年2回担当副長が指導する。
- ④公のお金の管理について指導する。

金額は当時月200円程度です。また隊費の徴収も次長を通して行いました。

班費のねらいと必要性については保護者会で説明して理解を得て実施しました。

特に、次長の役務として班費の担当をさせたことが、非常によい効果を生み、班長と次長の協力体制がうまく確立できました。

隊指導者は、このような気配りをする必要が大いにあると思います。



## 4. 班の色

班の色を決めさせて、班備品をはじめいろいろな物にマーキングしました。これにより一目でどの班の物か識別でき整理整頓、備品管理などに役立ちました。

ちなみに次のような色です。

マンチ班=黄色、ムスタング班=白、ジャガー班=赤、サンダー班=青

これらの色は、班旗の棒、鍋蓋、おたま、包丁の柄、まな板、なた、地図、参考書、もちろん班ノートなど、班の持ち物すべてに色付けしました。

自分で見て解る管理方式（これも会社で学びました）です。

## 5. 班競点

最近はあまり耳にしない言葉ですが、ボーイスカウト隊の活動をよりおもしろくするため、班で競わせるのです。

3か月単位で区切って、優秀班には自由な班キャンプを許可しました。

### 【例】

#### 班集会（班会議）開催

隊集会時	10 点
別な日時	20 点

#### 隊集会に出席

班員 1 人	10 点
班長出席	40 点
次長出席	30 点
ゲーム 一位	40 点
二位	30 点
三位	20 点
四位	10 点

#### 隊費集金状況

期日通り前額納入	50 点
1 人 1 か月遅延	- 10 点

#### 進級

初級	20 点
2 級	30 点
1 級	40 点
菊	60 点

#### 以上参考点数

## N. 隊長の心構え

### 1. 点検について（隊キャンプ）

隊キャンプ等を実施すると朝、夜の点検が行われます。この点検について研修所等のコースでの説明を聴くと、肝心なポイントが抜けているように思えます。

特に隊キャンプ、隊集会等の点検は、隊長が教えたことが隊員にいかに伝わり、いかに理解され、いかに実施されているか、隊長の指導性がチェックされていることだと思います。

隊長の指導性が隊員の行動に現れたのですから、指導通りに実施されていない場合は、隊長が反省して指導方法を考えなおすことが必要だと思います。

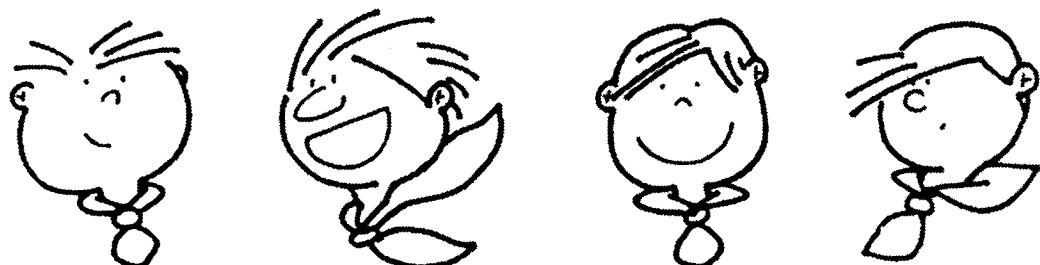
すなわち、グリーンバートレーニングのサイクル「計画」「実施」「評価」の評価です。

この評価を素直に受け止めて、指導方法の計画を立て直し、実施するのです。これが指導者のスカウティングです。

スカウトは隊長の鏡です。そんな心で点検を実施してみてはいかがでしょう。

### 2. 隊長の自己研鑽

新グリーンバートレーニングを始めて、班長一人ひとりに自信がつき班活動が活発になり、グリーンバー全員が8月前に菊スカウト章を取得してシニア隊へ上進していきました。



シニア隊での活動も自主的に活動できるスカウトが多くなりました。

このプログラムを進めるには、前にも述べましたが、隊長の時間的負担が一番大きいと思います。私は、ちょうど県連盟の副コミッショナーを引き受けた時期で、いろいろな行事との調整が非常にハードでした。

1年目の成果から自信を得て、続けて軌道に乗せていました。次の平岡隆一隊長も後を引き継ぎ続けてくれましたが、その後からは続かなかったようです。

真にスカウトの成長を考えると、班制教育は非常によいシステムだと思います。

問題は、任期が1年と短く、短期間の実体験しかできないので、成果を上げるために、我々成人指導者の多くの努力が必要になるということです。

スカウト活動は、社会的に素晴らしい活動です。

成人指導者は、スカウト活動で学んだことはもとより、一般社会で学んだことをスカウト活動に活かすことが必要だと思います。私は、会社で学んだことをスカウト活動に、スカウト活動で学んだことを会社の業務に活用してきました。それが自己研鑽ではないでしょうか。

「ちかい」の一つに「自分へのつとめ」とあります。自分の能力を高める努力はいつもする必要があるのです。そして学んだことは活用してはじめて知識となり、自分の物となるのだと思います。

スカウト運動の基本を正しく理解して、絶えず確認して、目標に向かって研鑽する。この努力がスカウティングの基本であり、スカウトに見せる後姿ではないでしょうか。

研修所を終了したとき、実修所を終了したとき、自分に何を求めたのか、一步前に出る人と留まる人の違いだと思います。

自己研鑽は、自分の明日が楽しくなることだと思います。



## おわりに

この資料をまとめてみて、自分のボーイ隊隊長時が懐かしく思い出されました。

今は、団委員長として団全体の運営に当たっていますが、ボーイ隊の隊長を今一度やってみたいです。

時代の変化により、子ども達が部活に、塾に忙しい毎日を送っていますが、スカウティングの楽しさを知るのは、やはりハイキング、キャンピングの技能を正しくマスターして野外活動で生かされた時だと思います。

人間誰でもリーダーシップを発揮してみたいと思っているのではないのでしょうか、小さな子どものグループですが、班長としてリーダーシップが発揮できた時、体験できた時、なお一層の楽しさを感じるのだと思います。

1年間という短い期間ですが、十二分にリーダーシップを体験し、これから的人生で生かせるような体験をさせてあげられるのが、スカウティングの班制教育だと思います。成人指導者の協力で体験の機会を作ってあげたいと思います。

また、ボイスカウト隊のプログラムに「わくわくはらはら」がなくなって、失敗による学習のチャンスを大人が奪っているように思います。

新任グリーンバートレーニングをしっかり行い、後のプログラム展開は班長、次長に任せれる能力と忍耐力を、指導者は持ちたいものです。

スカウト運動100周年にあたり、自分の実践してきた班長訓練をまとめました。少しでも参考になれば幸いです。

おわり

【 班マーク参考 】



日本連盟で販売している  
2色のマーク

↓ 下は当団の班マーク



ジャガー班



コマンチ班



ムスタング班



サンダー班

## 班長訓練 (グリーンバー訓練)

(隊指導者のための記録)

発行日 平成19年9月29日 (満68歳誕生日)

著者 ポーイスカウト船橋第20団

鈴木 誠



〒274-0067 船橋市大穴南5-19-17

電話・FAX 047-465-7954

Eメール: makoto39@jeans.ocn.ne.jp

ご意見がありましたらお寄せ下さい。